（別添3）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人　紫雲福祉会		
事業所名	グループホーム　おおつるの家		
所在地	大分県日田市大鶴町2267－7		
自己評価作成日	平成22年9月19日	評価結果市町村受理日	平成23年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470400732&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

男性3名女性5名で、年齢も20代から60代と幅広い年齢層のスタッフによる、、笑いあり、涙あり、感動ありの、第2の大家を再現したようなアットホーム的な雰囲気をかもしだす環境の中、皆様がそれぞれの居場所を作り、それぞれの時間を過ごされています。摺摺

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

○地域との繋がりが深く、自治会や消防団と連携した避難訓練や防災対策が行なわれている。また、避難訓練を毎月職員が積極的に取り組み、自己評価して次に向けて取り組んでいる。
○毎日のように散歩して、地域の家の庭先で休むなど、地域の理解が深い。
○利用者・職員が共に楽しく過ごしており、ピアノに合わせて大きな声を出して歌ったり、一緒にドライブに出かけ奇麗な景色を眺めるなど、感動を共有している。
○介護計画に基づいた支援で毎日評価することにより、職員が一貫した支援を行うことができる体制である。
○運営者が職員の意見を聞き取り、運営に活かそうとしている。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事への参加、園内行事への誘いかけ等で交流回数を増やし、福祉との垣根を取るように努力している。救急法などの講習は、地域住民も参加していただき、共に勉強する環境を作るようにしている。	地域福祉の発信地として、地域との架け橋になるべく、職員は取り組んでいる。ケアの中にも理念を活かし利用者のプライドを大切にした支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の1住民として迎えられている。職員一人一人が、常にあいさつを心がけ、親近感を持っていただくように心がけている。	自治会に加入し、地域の一員として草刈作業や祭りなど地域活動をしている。保育園児が定期的に訪れたり、散歩の途中に休憩したりと、地域の方達と交流をしている。近所の方から花や野菜のおすそ分けや避難訓練の参加など地域と密着した日々を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室で、利用者の家族と、地域住民との合同での会合を開き、共に理解や支援方法の検討等を気軽に話し合える会を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族の市政への思いを、会議で発言することで,家族の方もより身近に市政を感じることが出来、その意見を組み入れた問題解決策への展開的意見が市の職員からも出された。発信の場としての役割も見えてきた。	家族・入居者・市役所・地域代表・職員などが参加して、定期的に開催されている。外部評価・災害対策・感染症・権利擁護・介護教室・ケア内容など多岐の内容を話し合っている。また、行方不明時の協力体制についての話合いを計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所主催の研修会などには、積極的に参加をし、情報を共有できるように努力している。 質問や、疑問に思ったことは、積極的に電話でもたずねることにしている。	困難なことがあれば市役所へ気軽に電話で相談して、課題解決につなげている。市役所主催の研修に積極的に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ問題なく取組まれている。疑問に感じたことは、職員間や、職員会議で議題に上げ、共通の理解に心がけている。	職員研修の中で、身体拘束をしないケアについて学習している。契約書に、身体拘束の内容を書き込み、家族や本人に対して、身体拘束をしないことを誓約している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「恥を欠かせない介護をしよう」を合言葉に、特に言葉使いに注意を向けるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の1／3の家族が制度を利用するようになった。いずれは全員がこの制度を利用して、安心して暮らしていける環境を作れるように、制度の必要性について声かけをしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分の時間をとり、今できる最大な支援を心がけている。改定の場合は、内容を定期通信で知らせ、緊急の場合を除き、年2回開催される家族会で、説明会を開き承諾を得る手順を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内のことであれば、職員会議や運営会議に、外のことであれば運営推進会議の議題として取り上げ話し合いの場を作り反映する努力をしている。	運営推進会議や家族の会で、意見・要望を出してもらい、職員で検討してケアや運営に反映している。利用者は、思っていることを積極的に発言し、職員は謙虚に受け止め対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中での何気ない発言の中から、感じた言葉は、別の機会に再確認をし、必要と有れば、上司に上げるように心がけている。 年1回の園長の面接がある(全職員)	職員会議の中で、職員は感じたことや思いを発言し、勤務体制やケアに活かしている。年1回施設長と個人面接があり、意見を直接言えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	支障がない程度に、職員個人の家庭生活を配慮した、勤務体制を心がけている。職場の人間環境が崩れないように、一人一人の状況を把握できるよう、時間を作り、会話を心がけている。給与面では、難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修紹介コーナーを設置し、紹介している。希望があれば、他の職員との話し合いを持ち、シフト交換も可能としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会において、今年度は、職員研修に力をいれ、合同の3回の勉強会を計画している。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の入居者の方に働きかけをして、ここでの居場所確保に心がける。アセスメントで知りえた情報をもとに、不自然でない会話から本人の気持ちを出せるように、職員に働きかけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階での頻繁な訪問をお願いし、双方の心の橋渡しが出来るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員で、会話の中からアセスメントを深めていき、会議で支援方法を健としていくように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の得意分野が会話に出るように心がけ、教えていただく場面を大事にしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、近況報告をして、共に情報を共有できるようにしている。必要であれば、その都度電話にて以前の状況を気軽に聞ける関係つくりに心かけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月命日には、家族と共に自宅訪問をし、時には近所の方とのお茶飲み会へと発展することもある。(現在は2名の方)	毎週自宅訪問したり、馴染みのスーパーでの買物や、喫茶店へ出かけ珈琲を飲んで楽しんでいる。月命日に自宅へ帰ることを近所の人が知っており、お茶飲みを一緒に楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方のもたれている、障害や性格を考慮したホールや、食堂での座る位置をある程度設定させていただいている。状況をみて了解を得たら変更をすることもある。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のついで訪問、必要性があれば、研修の誘い、年賀状等で、何時でも相談に来れる関係継続に心かけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を中心に、職員会議や伝言版での情報共有に勤め、可能な限りの意向反映に努めている。必要な時期に必要な対応を心かけている。	入居者のできること・得意なこと・特徴・個性・どうしたら落ち着いた生活ができるかなど具体的に把握している。日々の生活からも本人の思いを汲み取り、その人らしく生きられるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を何時でも観覧できるようにしているが、まだ他の職員による書き込みはない。書きやすい様式を検討中である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人一人の1週間分、24時間の流れが人目で把握できる記録方式をとり、今の状況把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の職員会議で、チーフを中心に、状況確認と課題の検討に努めている。場合によっては計画変更もある。	週ごとに、支援目標・バイタル・記録・評価.・.摂食状況・生活内容の一覧があり、毎日モニタリングしている。職員がじっくり観察をして支援目標やケア方法を話し合っている。家族や本人、医師も意見や思いを出し反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の言葉を中心に記録に残し、月2回チーフがまとめ、職員会議にて共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接しているデイサービスや、ヘルパー事務所にも顔出しをして、何時でも他の職員からの援助が得られるよう、心かけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に違和感無く参加させていただくことで、昔の生活を懐かしむ体験をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医を継続し、可能な限りの家族同伴の受診をして、お互いの状況把握を心がけている。	馴染みのかかりつけ医を継続して受診している。職員が通院支援を行い、家族も同伴できる人は同行している。家族と職員が、入居者本人に適した医療が受けられるよう協働している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全員の、身体状況や服薬状況を看護職が把握して、状況に応じたアドバイスを他の介護職にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	、入院直後、退院前の面会と関係者との情報交換の場をもっている。入院時には、今までの生活パターンが分かる情報提供をしている。日頃の受診同行で、職員戸の関係つくりに心かけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、できることと出来ないことの説明をさせていただき、納得の上での入所をしていただいている。又、状況変化に応じて、何時でも相談に応じ、情報提供や対応できるように心かけている。	ホームとしては「家族の協力があれば看取りの支援も可能である」と方針を出し、家族に説明も行っている。また、状況により話し合い、対応しているが、書類の整備を検討中である。	看取りについて、支援の方針があるので、本人・家族と十分話し合い、書類としても、整備することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修の一環として、消防署職員による講義、演習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練では、全員が対応できるよう交代で担当している。地域住民による緊急連絡網が自治会長さんを中心に作成してくださっている。	毎月避難訓練を行い夜間も想定して実施している。地域の消防団や住民も訓練に参加している。緊急時は自治会長さんや地域へ連絡網が回り、防災無線放送も検討している。備蓄については、地域も考慮し、避難所として受入れ予定である。	

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GHの理念として「恥を欠かせない介護を」を掲げて日々努力している。	一人ひとりの思いを尊重しプライドを大切にした支援を基本としている。利用者は思っていることを自由に表現でき、職員は穏やかに言葉をかけ、聴くことに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で自然と出せる関係つくりに心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、その日の状況、天候、雰囲気を見て、可能な限り柔軟な体制が取れるように職員間の話し合いで一日が流れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた洋服が取り出せるように、担当職員を中心にタンスの整理を定期的にしている。可能な方は、一緒にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状態を見て、準備や、片付け、等のお手伝いへの声かけを必ずするようにしている。感謝の言葉を必ずかける。	食べたい物を要望し献立に反映している。準備や片付けなど、それぞれが出来ることをしている。職員と同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気で楽しそうに食べている。病状や体調に応じた調理内容であり、地域の食材も取り入れ会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を記入し、毎日確認することで状況に応じて、方法や種類、時間等の検討資料にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	これまでの声かけにより、全員が毎食後の口腔ケアーは週間となっている。場所はそれぞれの状態によって対応している。		

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ全員の排泄パターンを職員は把握して、必要に応じてトイレ誘導をしている為、日中の失敗が少なくなってきている。	排泄パターンを把握して事前に声かけをしている。入院によりオムツ使用になった人も退院後は自立に向けて支援している。トイレに行けるよう手すりの位置や方向など機能や状態に合わせ工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中に、植物繊維を多く含む食材、麦飯、ヨーグルトを取り入れる。昼食前の一時間は運動を兼ねた、レクレーションを取りいれることで他動的でも体を動かす時間を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人にゆとりを持って入浴が出来るよう、一日おきの入浴を設けている。体調やその日の状態に応じて、臨機応変に対応している。	隔日の入浴であるが、排便の状況によりシャワー利用や受診前入浴など臨機応変に対応している。骨折した方に対しても、工夫して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内設定温度確認をして、快適温度の中で熟睡が出来るように心がけている。現在の就寝時間は個々に違うが、ほぼ一定時間となってきた。TV番組によっては異なることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、特に変化があったときは、口頭と伝言板にて二重確認をしている。 担当者が、薬のセットをし、夜勤者が一日分の薬を準備することで、全体を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦よりその方の得意とされていた事が、現在の状況で少しでも生かして、役割を持っていただけるように考慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆様の希望を聞き、原則として、月1回の遠出を計画しているが強制はしない。 行きつけの店や、自宅へは家族や知人と連絡を取り、可能な限り出かけられるよう配慮している。家族の方の了解を得て、家の鍵をお預かりしている方いる。	車椅子の人も交代で散歩に出かけ、ご近所の庭先で休憩を楽しんでいる。自宅へ定期的に帰る人や買物・お茶飲み・ドライブと外に出かける機会が多い。天気の良い日は利用者と職員で話し合い、ドライブに行くなど、その日の希望に添った支援をしている。	

事業者名:グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や、外出の際管理のできる方へは、行き先の確認をして、御自分で準備・管理していただく。そのほかの方は、職員が預かり、品物選び。支払いを一緒にする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の作成(ひとり1枚以上)代筆もある。 声かけをし、季節の自作絵画を同封し、家族へお便りを出す方もいる。 電話の対応はPM10:00頃までは受け継いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲く季節の花々をテーブルに飾るように心がけている。耳の遠い方が多くなり、テレビのリュームはかなり大きくなっているが原則、食事中はつけないで会話を楽しんでいただいている。	廊下の角に仏壇を置き、毎日お供えをしてお参りが出来るようにしている。居間は陽当たりが良く、思い思いの場所でくつろげ、カウンター越しに調理の音や香りが感じられる。窓から季節の景色を望むことができ、庭先には花が咲き、生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に出来た、ホールでの御自分の座り位置があるようだ。固執しないように、時々意図的に替える事もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や、以前使われていたものを飾り、ホッとできる空間の演出をしている。ほとんどの方が日中はホールで過ごされる為、風が取るように,こまめに窓の開け閉めをしている。	馴染みの家具や小物・家族写真など、その人らしい居室つくりの配慮をしている。また、機能低下を防ぎ、動きやすい工夫など、職員の努力が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の状態に応じた食器を使うことで、自分で食べれるように工夫している。 既存の車椅子にクッション等で調整し、身体への負担が軽減できるように配慮している。今回、自立支援の為、新たに車椅子を購入した。		